

2001年1月30日

上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動概要(1999年～2000年)

上智大学アンコール遺跡国際調査団長：石澤良昭（上智大学教授）

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1980年以来カンボジア王国政府（APSARA）と協力しながら「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」を哲学に掲げ、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続けています。1999年度は4回にわたる調査団を現地に派遣し、以下の調査研究活動等を実施いたしました。2000年度も同様の活動を計画中でございます。

1．調査団の派遣

- ・第26次調査団（1999年02月07日～04月21日。74日間）
- ・第27次調査団（1999年06月15日～09月22日。99日間）
- ・第28次調査団（1999年11月11日～2000年01月25日。76日間）
- ・第29次調査団（2000年02月15日～03月31日。46日間）
- ・第30次調査団（2000年06月10日～09月05日。89日間）
- ・第31次調査団（2000年10月20日～12月31日。73日間）
- ・第32次調査団（2001年02月25日～04月10日。45日間 予定）

2．調査研究にご協力いただいている関係機関

カンボジア王国政府文化芸術省、王立芸術大学、プノンペン大学、アプサラ（アンコール地方遺跡整備機構）、シェムリアップ州、フランス極東学院（パリ）、ユネスコ（カンボジア）、ワールド・モニュメント・ファンド（ニューヨーク市）、奈良国立文化財研究所、日本大学、東北工業大学、帝塚山学院大学、金沢大学、奈良女子大学、京都府立大学、大阪市文化財協会、有田町歴史民俗資料館、早稲田大学政経学部、東北大学、小杉石材店

3．現地における調査団の主な活動

- (1)建築班：アンコール・ワット西参道修復工事、バンテアイ・クデイ遺跡のレベル定点測定の継続、ベンメリア遺跡の予備調査
- (2)地質班：バンテアイ・クデイ遺跡の地下地盤の砂岩調査、共振法による石材診断、シェムリアップ川の流域扇状地の地質調査、トンレサップ湖の形成予備調査
- (3)考古班：バンテアイ・クデイ遺跡のインベントリー補充調査、DO8 遺跡の実測図研究、サンボール・プレイ・クック遺跡群の調査研究など
- (4)窯跡班：B1 窯の発掘調査・研究、B4 窯のトレンチ調査、プノン・クレーン丘陵の窯跡地調査、窯跡発掘のための中堅幹部人材養成プロジェクト

- (5)水利環境班：シエムリアップ川の水質検査、トンレサップ湖の水質検査、プオック川・ロリュオス川の流域調査、トンレサップ湖の浮稲調査など
- (6)村落・社会班：5 ブームにおける農村調査、老人の社会活動参画プロジェクト、文化遺産教育、国立公文書館調査・研究など
- (7)民話・伝統文化班：村落の口承伝承調査研究、民話を小学生の補助教材読本に作成するプロジェクト、寺院壁画調査研究など
- (8)遠隔地文化遺産調査班：コーケー、コンボンズヴァイ・プリヤカーン、サンポール・プレイ・クック、ベンメリア、バンテアイ・チュマールの5大遺跡予備調査
- (9)小学校リュック・ミッション班（ボランティア団体と共催）：シエムリアップ州小学校へ手作りリュック・サック寄贈プロジェクト（鉛筆、ノート、消しゴム、サンダル、定規など封入）

4．人材養成プロジェクト（人的資源開発、地域住民啓発プロジェクト）

(1)学位取得のための大学院教育プログラム：

Ly Vanna：男、王立芸術大学考古学部 1995 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Hor Sukuntheary：女、王立芸術大学考古学部 1996 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Nhim Sutheavin：男、王立芸術大学考古学部 1996 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

(2)2000 年度神奈川県海外技術研修事業

Chhean Ratha：男、王立芸術大学建築学部 1996 年卒業、コンピューターによる製図研修

期間：2000 年 5 月～2001 年 3 月、場所：神奈川県国際研修センター

(3)アンコール遺跡における専門研修プログラム（1998 年～現在）

Loeung Ravatthey（女、考古学研修生）、Som Visoth（男、考古学研修生）、Lam Sopheak（男、考古学研修生）、Nuon Mony（男、考古学研修生）、Tin Tina（男、考古学研修生）Chahan Ratha（男、建築学研修生）、Mao Sokny（男、建築学研修生）、Tat San Huot（男、建築学研修生）

研修場所：上智大学アンコール研修所（シエムリアップ市）

(4)アジア・ユース・フェローシップ（AYF）プログラム（日本国外務省）

Ek Bunta：男、上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程卒業、現職 王立芸術大学講師

(5)文部省国費外国人留学生

Keo Kinal：男、東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻研究生

(6)「上智大学アンコール研修所」への長期研修生の受け入れ

（考古学・建築学 計 15 名、石工 35 名）

(7)村人・小学生を対象としたバンテアイ・クデイ遺跡についての発掘現場説明会の開催

（1999 年 3 月、12 月、2000 年 3 月の 3 回）

(8)アンコール・ワット・クリーニング・オペレーションの実施

（第 1 回 1999 年 8 月 22 日～30 日（35 名参加）、第 2 回 2000 年 8 月 25 日～31 日（45 名参加予定）。日本・カンボジア両国の学生研修事業）

5 . 日本におけるシンポジウム・報告会等の開催

- (1)第 6 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(1999 年 1 月 23 日)
- (2)第 1 回「アンコール・ワット国際シンポジウム」共催行事(2000 年 2 月 19 日)
- (3)第 7 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(2000 年 2 月 26 日)
- (4)国際シンポジウム「アジアにおける歴史水利都市と文化遺産―巨大遺跡を農業と「水」のかかわりから検証する - 」主催行事(2000 年 9 月 19、20 日)
- (5)国際シンポジウム「アジアの文化遺産と 2 1 世紀―遺跡保存現場から文化遺産学に向けて - 」主催行事(2000 年 9 月 21、22 日)
- (6)第 8 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(2001 年 1 月)

6 . 出版物・報告書の刊行

- (1)『カンボジアの文化復興』第 1 号～第 16 号(1984-1999)
- (2)『アンコール遺跡を科学する』No.1-7(1994-2000)
- (3) 盛合禧夫編『アンコール遺跡の地質学』連合出版 2000 年 4 月
- (4) 中尾芳治『アンコール遺跡の考古学』連合出版 2000 年 4 月
- (5) 石澤良昭共著『アンコールの王道を行く』淡交社 1999 年 1 月
- (6) ISHIZAWA, Y: A / bngtheRtlyzYIHDa(Zs toAl2gknz; Weatherhnl, NewYork,1999
- (7) 石澤良昭・荒樋久雄・丸井雅子共著『アンコール・ワットへの道』JTB 出版部 2000 年 2 月
- (8) レイ・タン・コイ『東南アジア史』(新增補版)(石澤良昭訳)白水社 2000 年 4 月
- (9) 坪井善明編『アンコール遺跡と社会文化発展―遺跡・住民・環境―』連合出版 2000 年 12 月
- (10) 片桐正夫編「アンコール遺跡の建築学」連合出版 2000 年 12 月
- (11) 石澤良昭・坪井善明・遠藤宣雄共編『カンボジアの文化復興』第 17 号 上智大学アジア文化研究所、2000 年 12 月
- (12) 公式報告書の作成『パンテアイ・クデイ遺跡報告書』(仮題)(2001 年 12 月)

以上